

## サーチライト With Pastor Jon 黙示録 12章 パート1

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。(黙示録 12:1)

この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。(黙示録 12:2)

女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。(黙示録 12:5)

巨大なしるし…

太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には星の冠をかぶった一人の女が、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげています。

この子は鉄の杖をもって、全ての国々の民を牧し、更に神のみもと、その御座に引き上げられます。

この女は誰でしょう。

様々な説がありますが、クリスマンの大半は、彼女は聖母マリアだと信じています。

古い絵画を見ると、この場面、12の星と月と太陽に囲まれた女がよく描かれていて、タイトルはいつも『聖母マリア』

でもこれには問題があって、この、天で産みの苦しみに叫んでいる女がマリアなら、そして産もうとしているのがイエスなら、彼女は天国で痛みを苦しんでいることになります。

しかし、天国には痛みも苦しみも苦難もありません。

だから文字通り、物理的にも、事実歴史的にも、これがマリアだとすると問題が生じます。

天国には産みの痛みなんてないからです。

なので、これはマリアではないと思います。

分かりますか。

天国がどんなに素晴らしい所か！天国に行くのがとても楽しみです。

別の説では、そのマリアではなく別のマリアで、マリア（メリー）・ペーカー・エディーだと信じるグループもいます。

メリー・ペーカー・エディーはクリスチャンサイエンスの創始者です。

このグループは、生まれてくる子供はクリスチャンサイエンスで、女が創始者のメリー・ペーカー・エディー、男の子を襲う竜はクリスチャンサイエンスを攻撃したり、理解しない人たちだと信じています。

あまりにも飛躍し過ぎで、私は、これは違うと思うのですが。皆さん、どうですか。

他には、この女は教会だと言う人もいます。

でも教会は天国にいます。

世を支配する方を教会が生むということは、やっぱりねじ曲げたり、逆さまにしているのです。

世を支配する方は当然イエス・キリストですが、教会がイエスを生んだのではなく、イエスが教会を生んだのです。

いいですか。

イエスは“最後のアダム”で、“最初のアダム”も彼から生まれました。

この話は知っていますね。

“最初のアダム”はエデンの園で眠りにつかされ、その脇腹から完全な花嫁である女が創られました。

そして新約聖書で”最後のアダム“と呼ばれているイエス。

十字架上でローマ兵がイエスの脇腹を槍で突き刺した時、主の血と水が流れ出しました。

興味深い事に、血と水は出産に伴う液体ですから、その時何かが生まれていたのです。

丁度エデンの園で、最初のアダムの脇腹から花嫁が出たように、苦しみの中の十字架上で、主はあなたや私のためにとっても残酷な形で死に、その脇腹から花嫁が出たのです。

主の脇腹からキリストの花嫁が。

イエスは十字架の御業によって花嫁を生みました。

また、教会がこの女だと言うのには、他にも問題があるのです。

私たちはキリストの花嫁、汚れを知らないキリストの花嫁なのに、処女の花嫁が妊娠しているのは問題です。

だから、この女はキリストの花嫁ではないと思います。

聖書と全く矛盾することなく、総括的に確かなのは、この女は“妻”

だから妊娠しています。

彼女は“エホバの妻”

では、エホバの妻とは誰でしょう。覚えておいて下さい。

新約聖書は、私たち教会はキリストの聖なる花嫁であると教えており、旧約聖書では、イザヤ書、ホセア書、その他の書でイスラエルがエホバの妻だと示しています。

つまり、イスラエル国、ユダヤ人のことです。

ですから、この女は『イスラエル国』

それが確かである事は聖書の中から証明できますが、もう一つ、神学の基本である「最初の記載」によ

っても分かります。

女、それから星、太陽、月が出てくる箇所で、具体的に書かれているのは創世記 37 章。

創世記 37:9 - 11 に出てくるヨセフという若者。

ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです」と言った。

(創世記 37:9)

父ヤコブは名前をイスラエルに変えられ、12 人の息子たちは後にイスラエルの 12 部族になりました。

それで、創世記 37:9 - 11 の絵は、イスラエル国の星、太陽、月を描いていると言えます。

だからこれは、神学的に見ても疑う余地もなく、この女は『イスラエル国』です。

この女は、みごもっていたが (黙示録 12:2)、男の子を産みます。

イエスはユダ族に生まれ、イスラエル国に生まれ、ユダヤ民族から出ました。

だから、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである (黙示録 12:5) イエス、メシアを産み出す女はイスラエル国です。

さて、女が男の子を産もうとするところで、いよいよ話が核心に迫って来ます。

また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。(黙示録 12:3)

さあ、7つの頭に10本の角。

この角が何であるかは、ダニエル書 7:7 - 8 に書かれているので分かりますね。

この10本の角は、ダニエル書 2 章では、10本の足の指とも書かれていて、ある夜、ネブカデネザルが夢で見た像の足の指でした。

ダニエル書に馴染みのない人のために補足すると、像の10本の足指、獣の10本の角は、共に後に旧ローマ帝国から起こる10か国の同盟を指しています。

これについてはこの先詳しく学んでいきますが、今夜は10本の角の学びです。

大きな赤い竜にある10本の角は、明らかに10か国を表していて、反キリストがここに拠点を置きます。

竜はサタン。

聖書では、竜はサタンの名称で、赤いのは、彼が殺す者だから。

7つの頭は、単に竜の恐ろしい外見を示しているのではなくて、それも一部ありますが、黙示録 17 章を見て下さい。

詳細はその時にまた説明しますが、黙示録 17:9 にはっきりと「七つの頭とは、七つの山で」と書いてあります。

政治指導者である反キリストは、サタンにコントロールされていて、7つの山の町から支配、統治します。

過去から現在に至るまで歴史的に「7つの山の町」で知られる町、それはローマ。

ローマは何世紀、いや何千年も「7つの山の町」として知られていて、今後もその名で知られていきます。

このように、7つの頭については、17 章で明確に記載されています。

イスラエルがメシアを生もうとしている。

怒り狂った竜、サタン。

その7つの頭は、サタンが権力を振るう時に拠点となる位置。

サタン、反キリスト、偽預言者の汚れた三位一体。とんでもないトリオ。

そして、ローマ。

10か国から成る連合は、旧ローマ帝国から誕生します。

10本の角は政治的拠点で、7つの頭は地理的な位置。

竜は、この帝国と反キリストと呼ばれる人物を裏で操る力を持っています。

竜は神話の中でもサタンと関連づけられ、今日でもまだ中国に存在しています。

エデンの園でアダムとエバを騙した蛇が、空を飛べるように翼を得たのが竜。

**その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。(黙示録 12:4)**

かつてはルシファーと呼ばれていたサタンは、全ての被造物の頭として、天で礼拝と賛美を指揮していました。

ところが突然、自分が神のようになろうとし、神に反逆して追放されたのです。

聖書にはその時の事が記されていて、彼は御使いの1/3を道連れにしました。

ここで言う「星」は御使いのことで、ルシファーと共に神に反逆した1/3の御使いは、天から追放され、今日で言う悪霊、墮天使になったのです。

惨劇です。

今はサタンと呼ばれる竜、ルシファー、悪魔は、その尾で天の軍勢を引き寄せました。

**また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。(黙示録 12:4)**

投げ落とされた竜は、天の御使いの1/3を引き寄せて、次に女を襲おうとしています。

聖書の歴史でも、世俗の歴史でも見ていくと、イスラエル人が絶えず虐殺されてきたのが分かるでしょう。

創世記6章にも、カインとアベルの話でも、それを見ることができます。

またパロは、イスラエルの民がエジプトにいた400年の間に、全ての男の子を殺して、この民を滅ぼそうとしました。

このように、聖書全体の流れを見て、全ての出来事が解き明かされていくと、いつもユダヤ人を絶滅させる計画が出てくることに気付くでしょう。

なぜか。

それは、ダビデの子孫としてメシアが生まれるのを阻止するためです。

ユダ族の獅子、ダビデの家を消滅させる！

アブラハムの子孫であるユダヤ人を滅ぼせ！

イスラエルの民を絶滅させるのだ！というように。

だから、今見た竜も、女がようやくメシアを産む準備が整った時に待ち構えています。

竜はメシアの初臨を阻止することができませんでした。

それで次の計画で今度は、メシアが再臨し、エルサレムから世界を支配し統治するのを阻止するため

に、イスラエル国を破壊し、ユダヤ人を絶滅させようとしているのです。

これが理解できなければ、反ユダヤ主義に対して満足できる答えは、絶対に得られません。

唯一説明がつくのがこの黙示録 12 章。

竜は、何としてもユダヤ人を絶滅させ、預言通りにイエスが再臨し、エルサレムから全世界を支配するのを止めたいのです。

**4 節最後、彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。(黙示録 12:4)**

これは当然失敗に終わります。

**女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。(黙示録 12:5)**

ここで、イエスが引き上げられた、とあるのは、イエスの死と昇天のことです。

話は続きます。

**女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった(黙示録 12:6)**

では数学者の皆さん、1260 日とはどれくらいですか。

3 年半、42 か月。

または何度も出てくる別の言い方の、一時と二時と半時の間。 $1+2+0.5=3.5$ 。

全てこれらの表現は、後半の 3 年半、42 か月、1260 日、一時と二時と半時に起こる事、大患難の 3 年半と同じ期間を示しています。

それはいつ起こるのでしょうか。

反キリストが、中東問題を解決したその日に突然神殿に入り、以前お話しした通り、聖なる所を荒らして、自分を拝めと命じます。

この荒らす憎むべき事を行うのが、患難時代の丁度中間。

その時から大患難が始まります。

1260 日、42 か月、3 年半の間、突如ユダヤ人の上に地獄がふりかかってくるのです。

だからイエスはマタイ 24 章でこう言いました。

**「それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべきもの』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)(マタイ 24:15)**

**そのときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。(マタイ 24:16)**

**屋上にいる者は家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。」(マタイ 24:17)**

イスラエルの家は屋上が平らになっていて、そこでくつろぎます。テラスのようですね。

イエスは言いました。

「これらのことが起こったら、反キリスト、荒らす憎むべき者が神殿に入ったのを見たなら、力の限り走って逃げるんだ。家の中に入って荷造りしてはいけない。化粧なんか忘れて、とにかくできるだけ早く荒野に逃げなさい。」

荒野は東側にあります。

イスラエルで西側に行くと海。

だから東に逃げるのです。

これは、非常に重要です。

逃げろ！そして、

「ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。」

(マタイ 24:20)

エルサレムの冬は雪が降ります。

安息日には全ての交通機関が停止します。

「そのときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような、ひどい苦難があるからです。(マタイ 24:21)

もし、その日数が少なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。」

(マタイ 24:22)

反キリストが神殿に入ると、後半の3年半の大患難が始まります。

それは未だかつてないほどのひどい苦難で、ユダヤ人は荒野に逃げます。

荒野。

面白いことにイザヤ書 16 章に、この荒野がどこなのかがはっきり書かれています。

黙示録 12 章には、

そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった

(黙示録 12:6)

イザヤ書 16 章では、

子羊を、この国の支配者に送れ。セラから荒野を経てシオンの娘の山に。

(イザヤ書 16:1)

“セラ”は“ペトラ”のことで、セラの意味は「岩」、ペトラも「岩」

それから、これはペトラに対する預言です。

モアブの娘たちはアルノンの渡し場で、逃げ惑う鳥、投げ出された巣のようになる。

(イザヤ書 16:2)

ペトラはモアブの町で、現在はヨルダンの領土です。

ものすごいことです。主は続けます。ビックリの預言です。

助言を与え、事を決めよ。昼のさなかにも、あなたの影を夜のようにせよ。

散らされた者をおくまい、のがれて来る者を渡すな。(イザヤ書 16:3)

逃げて来た者を追い返してはいけない！

散らされた者をペトラにかくまえ！

あなたの中に、モアブの散らされた者を宿らせ、荒らす者からのがれて来る者の隠れ家となれ。しいたげる者が死に、破壊も終わり、踏みつける者が地から消えうせるとき、

(イザヤ書 16:4)

一つの王座が恵みによって堅く立てられ、さばきをなし、公正を求め、正義をすみやかに行う者が、ダビデの天幕で、真実をもって、そこにすわる。(イザヤ書 16:5)

是非この預言を読んで下さい。

ともかくこれは、ペトラへの預言です。

ここで主がペトラに言っているのは、「わたしの民をおくまえ。全世界の支配者がすぐに来るから。そ

れまでわたしの民をかくまうのが、あなた方の役目だ。」

先程言った通り、ペトラはヨルダンの中にあり、岩が削られて出来た、驚くことに空っぽの町です。ここはすごい場所です。

この岩の町ペトラには、入口が一つしかなくて、ペトラに入るその唯一の入口の幅は約 3.6m。狭い通りの両脇は崖。

この驚くべき町ペトラは、何世紀にもわたって建っています。何世紀もです！

ナバテア人によって、岩を削って建てられた、完全に空洞の町、完全な状態で保存されているペトラ。ちなみに「見た事があるかも？」と思っている人、それは「インディ・ジョーンズ」で見たのでしょうか。

この映画のシリーズの一つは、ペトラで撮影されましたから。

とにかくペトラについて調べると、これが奇妙なまでに、完璧に保存された町であることに気付くでしょう。

聖書には患難時代の間、ユダヤ人がそこへ逃げると語られていて、反キリストの激しい怒りから、そしてユダヤ人を絶滅させようとする竜から逃れたユダヤ人が、安全に守られる場所として、昔から知られています。

そこで、W.E.B ブラックストーンのような伝道者や聖書学者たちが、ずいぶん前に、預言の箇所の下線を引いて、状況を説明した何万冊ものヘブル語の新約聖書を、土の器に入れて設置してきました。

それらの新約聖書や本は、ペトラ周辺に隠されています。

それから、ヨルダンにあるのはペトラだけではないと、聖書にいくつも書いてありますが、今夜は時間がないので簡潔に言うと、主は隠れ場を用意しておられるという事です。

反キリストが怒りを燃やし、患難時代の真ん中でその本性を現して、ユダヤ人に戦いを挑んできた時、ユダヤ人はようやく騙されていたことに気付きます。

「はめられた！反キリストは我々のヒーローではなかったんだ！」

「我々のメシアでもない!!」「あれはサタンだ!!」

彼らはイエスの言葉通り、ペトラがある荒野に逃げます。

このことはイザヤ書 16 章と、他にも旧約聖書の中に「彼らをかきまう」とはっきり記されています。

「いや~ ジョン先生、それは数百年前なら通じたかもしれないけど、今はクルーズミサイルや中性子爆弾、ステルス戦闘機もあるのに、ペトラの中が安全なんですか？」

そのままで。話はこれからです。

つづく

ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。(ローマ 11:33)

というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。(ローマ 11:36)